鹿島の祭頭祭

春一番、鹿島立ち

平成29年

3月9日(木)

3/9 祭頭祭タイムスケジュール

左方	時間	右方
奥野谷郷 【大総督】城之内龍雅 【組　数】16組 【人　数】500名		**清水郷** 【大総督】田中蓮珠 【組　数】13組 【人　数】270名
祭頭祭	10:00	祭頭祭
出陣	12:00	
仲町通り囃し開始	12:10	
踊り披露 (いきいきサロンひまわり前)	13:00	出陣 仲町通り囃し開始
角内・大町通り囃し開始	13:30	踊り披露 (いきいきサロンひまわり前)
うちだや着 踊り披露	14:00	
	14:30	角内・大町通り囃し開始
鹿島神宮境内 一斉囃し	15:00	うちだや着 踊り披露
	15:40	
	16:40	鹿島神宮境内 一斉囃し
春季祭	18:00	春季祭

お問合せ先

鹿嶋市観光協会 ☎0299-82-7730
http://www.sopia.or.jp/kashima-kanko/

鹿島神宮 ☎0299-82-1209
http://www.kashimajingu.jp/wp/

鹿嶋市商工会 ☎0299-82-1919
http://www.sopia.or.jp/shokokai/

鹿嶋市商工観光課 ☎0299-82-2911
http://city.kashima.ibaraki.jp/

神栖市教育委員会 ☎0479-44-6496

鹿嶋市教育委員会 ☎0299-82-2911

【交通アクセス】
東京方面 ●車＝東関東自動車道潮来I.C.から車で10分
●バス＝東京駅八重洲南口から高速バスで120分
埼玉・栃木方面 ●車＝圏央道大栄JCTから東関道潮来I.C.
51号経由で30分 ●車＝北関東自動車道水戸大洗I.C.
国道51号経由で50分

春の訪れを告げる祭頭祭

毎年三月九日「イヤートホヨトホヤァー」の歌に合せて色鮮やかな衣裳を身に付けた囃人が六尺(百八十センチ)の樫棒を組んでは解き、囃しながら街中を練り歩く勇壮な祭りです。

奈良朝の頃、武運長久を祈って旅立っていった防人たちの「鹿島立ち」の故事を表わすと言われていますが、本来は五穀豊穣・天下泰平を願う祈年祭と言えます。

鹿島地方に春を呼び、人々の健康や豊作を願って行われます。

祭頭祭は、年間八十回を数える鹿島神宮の行事の中でも最も規模が大きく、勇壮な祭典です。

午前十時、昨年の春季祭で当番に卜定された大総督が狩衣姿で家族役員に護られながら昇殿し祭頭祭が厳かに執行されます。

祭頭祭参列後、年社、月読社を参拝し本陣へ帰着。大総督は狩衣を解き甲冑を着装します。

十二時より、ほら貝・太鼓が鳴らされる中、祭事委員長の掛け声を合図にいよいよ祭頭囃の行列が本陣を出立。行列が伊勢神社前に至り拝礼。その後行列は仲町通りへ向かいます。

色鮮やかな衣裳の囃人が、ほら貝や太鼓の音に合せて、囃し唄を歌い、ガッシ、ガッシと樫の棒を組みながら、仲町通り・角内通り・大町通りを練り歩き、いよいよ鹿島神宮に囃し込みます。威勢のいいかけ声は夕刻まで神宮の森に響きわたります。

祭頭祭の歴史

祭頭祭の起原は奈良時代の天武朝とも平安時代とも諸説ありますが、文献として遡りうるのは建仁四年(一二〇四)でこの時は、片野・長保寺と平井・宝持院が祭の頭人を務めています。

祭頭祭の祖形はその囃言葉からも窺えますように五穀豊穣、天下泰平を主な願意とする祈年祭に近く、しかも地域に密着した祭りでした。

現に明治初期の茨城県への進達書には祭頭祭を『祈年祭』と規定しています。明治までの神仏混淆時代では二月十五日の釈迦入滅の常楽会に習合し、その名残りから男子の大総督を今でも「新発意」と表現しています。

昭和五十一年十二月には文化庁から国選択無形民俗文化財の指定を受けています。

鹿島神宮祭頭歌

弥発生鹿島の豊竹豊穂良豊穂弥
礼豊穂善豊穂弥アアヤレソラ御社楽豊穂良穂弥発生
イヤーホエ鹿島の豊竹トホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレソラ
御社楽目出度いイヤーホエ
イヤーホエ若者揃ふたよトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレソラ
太鼓に合わせてイヤーホエ
イヤーホエ宮山参りはトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレソラ
氏子の喜びイヤーホエ
イヤーホエ田作り人等はトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレソラ
御国の礎イヤーホエ
イヤーホエ大御代豊かにトホヨトヤ
イヤートホヨトホヤアー、ヤレソラ
五穀は豊穣だイヤーホエ

祭頭祭案内図と見どころ

左方 奥野谷郷 進行
右方 清 水 郷 進行

■交通
駐車場が少ないため、なるべくJR線、高速バス特急かしま号(東京―鹿嶋間1日78往復、所要時間約2時間)をご利用下さい。

祭頭祭特殊用語あれこれ

北郷南郷　鹿島神宮を中心に北の大字を北郷、南を南郷という。

本陣　奉仕字が祭頭祭当日、拠点とする宿をいう。町内の旅館などを借り上げる。

新発意　一軍の将として下定後に選ばれる五才前後の男児。大総督、又は小僧さまとも呼ばれる。

祭頭囃　十五、六名の囃し人が一組となり、太鼓の音に合わせて祭頭歌を声高らかに歌いながら、樫の棒を組んではほごし、ほごしては組む所作を繰り返す勇壮なもの。

春季祭　三月九日午後六時に執り行う大祭。次年度の祭頭祭当番字を下定する神事。

抽籤字　御当の籤に入った大字のこと。前回当番より約二十年で入る。

物申　当番が下定した大字を担当する神職のこと。一年間祭事に関係する。

大豊竹　祭頭祭当日神前に立てられる根堀りの真竹、一年を通じて注連をかけ大切に育てられる。

棒揃え　最終的な練習と棒数の確認を行う行事。

廻り祭頭　鎮守の杜をはじめ、大総督家、または学校や大字内を囃し廻ること。

左方 奥野谷郷

【大総督】
城之内龍雅君(7歳)

●奥野谷郷の紹介

奥野谷郷の歴史は縄文時代の奥野谷(出羽貝塚)から始まると考えられます。黒塚千軒、青塚千軒と謳われた般賑の伝えと鹿生島弁財天(市杵島神社)が往古の繁栄の歴史として残っています。

江戸時代後期から明治期に浜野、池向地区に人が増え、農業、漁業が盛んな土地となりました。近年、鹿島開発により東和田地区が東部コンビナートとして発展したため郷民の社会環境や暮らしも大変貌し、今日に至っています。

鹿島神宮の「祭頭祭史料」によれば寛元四年(一二四六年)御頭寺は左方ヲキノヤ村般若寺で、次の正応四年(一二九一年)には奥野谷村になっています。今回の祭頭囃の奉仕は昭和十八年以来、七十四年振りとなります。

神仏混淆の時代から信仰厚い奥野谷郷民は知手地区に移転した同胞も含め、囃子十六組総勢五〇〇名余の参加です。勇壮な囃子での霞降る鹿島の春の到来をご覧になってください。

右方 清水郷

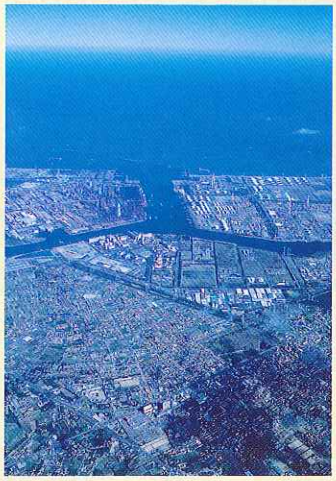
【大総督】
田中 蓮珠君(5歳)

●清水郷の紹介

鹿島神宮の北約四キロメートルに位置する清水郷は東に太平洋を望み鹿島台地を水源とする豊かな清水が多く湧出することに地名が由来します。海に面するためかつては地曳網やタコ漁が盛んにおこなわれ、地区に沿って帯状に伸びる水田と西側の台地に広がる豊沃な畑地といった山と海の幸に恵まれた農と漁に生活の基盤があったといえるでしょう。そんな地域も昭和三十年後半に始まった鹿島開発の波と共に一変し、現在は地区民の大半が関連企業を始めとする各職種の勤め人という生活基盤に変化しています。

清水の戸数は約一五八戸と決して大きな集落ではなく祭りの華である子供たちの数もかつて奉納した二十数年前の祭頭祭の約半数という我が地区も社会現象の例外ではありません。だが、私達は仰々しく派手な祭頭祭であることより、先人から守り継承されてきた貴重な文化遺産を鹿島人、氏子である誇りを持って奉納し、そして子や孫に伝える責務があると考えています。「伝統を重んじ丁寧に作りあげる祭頭祭」を目指しこれまでの準備を進めて来ました。ご縁があってお迎えした大総督(しほち)田中蓮珠君を筆頭に役員一同囃し人が一丸となって清水の祭頭祭を皆様に披露したいと存じます。

鹿島港と鹿島臨海工業地帯



鹿嶋・神栖市にまたがる鹿島港を中心に鹿島臨海工業地帯が広がっています。

第47回 宮中ふるさと市

2017 3月9日(木)

●時間：午前10時～午後4時
●場所：ホテル古保里前 観光協会駐車場

ビンゴ大会
（PM3：00予定）
●賞品多数あり●

飲食コーナー
- ●から揚げ
- ●焼きそば
- ●たこ焼き
- ●ビール・ジュース
- ●ポップコーン 他

※品目は多少の変更があります。

特産品販売
- ●卜伝まんじゅう
- ●うみの音(洋菓子)
- ●いいとこまんじゅう(和菓子)

■主催：鹿嶋市・鹿嶋市宮中地区商店会連合会　■後援：鹿嶋市商工会・鹿嶋市観光協会・鹿島神宮

鹿島神宮周辺 まちあるきマップ

七福神めぐり

にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めるように右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。

- イ 布袋
- ロ 福禄寿
- ハ 寿老人
- ニ 弁才天
- ホ 大黒天
- ヘ 毘沙門天
- ト 恵比寿

鹿島神宮めぐり

❶大鳥居

東日本大震災で倒壊した鳥居にかわり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素朴で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。

❷楼門

寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ。緑の中にひときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿島神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。

❸本殿

社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拝殿・石の間のいずれもが国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,200年と推定されるご神木です。

❹鹿園

園内に遊ぶ鹿たちは、〝神のお使い〟。現在の鹿は、鹿島から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。〝アントラー〟とは鹿の枝角のこと。Jリーグ「鹿島アントラーズ」の名もここに由来しています。

❺奥宮

慶長10年(1605年)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き遷したもので、重要文化財に指定されています。

鹿島歴史めぐり

❽塚原卜伝の像

宮本武蔵との〝なべぶた試合〟の話で知られる塚原卜伝(1489～1571)は、鹿島新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原卜伝誕生五百年を記念して建立されています。

❾鹿島城山公園

鹿島神宮駅から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿島城跡の碑も建っています。

❿根本寺

聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚を禅の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にここへ月見に訪れています。その様子は「鹿島紀行」にも記されており、境内には〝月はやし梢は雨を持ちながら〟などの句碑も建てられています。

⓫鎌足神社

天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祭る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿島神宮の鎮座する地で出生したとあります。

⓬一之鳥居と北浦の夕日

大船津はその昔鹿島神宮参拝の玄関口として賑わい、水上に建つ一之鳥居は景観が親しまれていました。その往時をしのび平成25年に建てられたのが現在の一之鳥居です。

❻要石

地震を起こす大なまずの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、〝鹿島の七不思議〟の一つにも数えられています。

❼御手洗池

この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、〝鹿島の七不思議〟の一つとなっています。公園も整備され、市民の憩いの場になっています。